

信念を貫く家づくりが 施主の喜びにつながる

広島市を中心に住宅事業を行っている旭ホームズは、高断熱・高気密を徹底し、地域の高品質な素材を建材に使うなど、性能・品質に妥協しない家づくりに取り組んでいる。妥協しない家づくりを貫くことで、最後は必ず施主が喜んでくれるという。また、今後は高断熱・高気密に取り組む横のつながりも強化し、快適で健康的な住まいを地域に広げようとしている。

旭ホームズの家づくりのこだわりを教えてください。

「素の家」というブランドの注文住宅を中心に住宅事業を行っており、木の家が持っている素材の良さを活かした家づくりを基本としています。性能面については、長期優良住宅のレベルを標準としていますが、中でも断熱性能については国の断熱基準よりも2ランク上の断熱性能を標準としており、特に力を入れています。

広島は温暖であるため、そこまでの断熱性能は必要ないと思われるかもしれませんが、実は意外と必要です。比較的温暖な地域もありますが、山沿いでは冬には雪が降るほど寒い。このため、基準よりも2ランク上の断熱性能を持つことで、対応できるようにしているのです。また、断熱性能が足りず、部屋間の温度差が大きいとヒートショックなどの健康リスクが高まります。こうしたリスクを減らし、健康に暮らせる住環境を提供するという点でも2ランク上の断熱性能が必要になってきます。

お引き渡し後、お施主さまから「暖かくて快適」と喜びの声をいただく、もう断熱性能を妥協するわけにはいきません。たとえお施主さまがそこまでしなくても良いとおっしゃっても、基本的には、私たちの考える断熱性能を確保した家づくりに貫き通させていただいています。住んだ後に必ず喜んでもらえることが経験上わかっていますから。

断熱性能を向上させるためには、特に窓が重要だと考えています。私たちはYKK APの樹脂窓「APW330」を標準に、特に必要な箇所についてはトリプルガラスの「APW430」を採用

細く裁断し、織り機で織って布状にしたものが紙布です。今では、全国でも広島と静岡にある3、4社しか製造していない貴重な素材で、私たちは広島県江田島市能美町にある明治23年創業の伝統ある津島織物から供給させていただいています。高級な壁紙として卸されていますが、住宅居室すべてに採用されているのは、私どもくらいではないでしょうか。15、6年前くらいから付き合いがあり、私たちオリジナルのデザインの紙布を作っていたり、通常よりもコストを抑えていただくなどしていただいています。

紙布クロスは「呼吸するクロス」と呼ばれるほど通気性と吸湿性があり、調湿効果や結露防止に効果があります。特に、押し入れやウォークインクローゼット、小屋裏などの湿気がたまりやすい場所では、カビの防止に効果を発揮します。

また、紙布はかつて草履の底の素材に使われていたほど耐久性に優れています。紙という素材でありながら踏んでも擦れても大丈夫で、ビニールクロスとの2倍の耐久性があると言われています。

ビニールクロスとの比較で言うと、ビニールクロスは白色は冷たい感じがしますが、紙布の白は光を反射しないため柔らかい。また、自然素材であるため、無垢の床との相性が良く、自然志向の人に人気です。加えて、燃やしてもビニールクロスのように有害な物質を出さないため、環境に良い素材でもあります。



旭ホームズでは、全棟で気密測定を行っており、現場のほとんどの社員が気密測定士の資格を持っている



広島県江田島市能美町にある明治23年創業の伝統ある津島織物から供給を受けている独自の素材「紙布」をクロスに採用。「紙布」は通気性や吸湿性、耐久性、発色などに優れ、「素の家」に独自の価値を与えている



「素の家」では、YKK APの樹脂窓「APW330」を標準に採用するなど、国の基準よりも2ランク上の断熱性能を実現し、快適で健康的な住環境を提供。こうした取り組みが施主の暮らしの喜びに繋がっている

用しています。広島でもいち早く、10年前くらいから樹脂窓に注目し採用を始めました。従来、広島では窓をあまり重視せず、できるだけ安く仕入れるものだという考えが根づいていました。しかし、断熱性能を上げるためには、窓の断熱性能を高めることが一番効果的ですので、私たちは樹脂窓が登場し始めた頃から採用しています。最近樹脂窓が当たり前になってきているので、もうアルミに戻る気はないですね。

断熱だけでなく気密性能にもこだわっており、全棟で気密測定を行っています。自社で気密測定装置を用意し、現場のほとんどの社員が気密測定士の資格者です。初めは気密性能の数値を表すC値を2.0平方センチメートル以下にするよう目指していましたが、テーピングやウレタンといった気密部材の工夫や、気密の専門家に指導を仰ぎ、気密性能を徐々に高めてきました。その結果、現在は1.0平方センチメートル以下を切るまでになっています。

断熱材をいくら厚く施工しても隙間があつては断熱性能を100%発揮できません。このため、断熱性能を最大限に発揮するため、気密についても徹底的に取り組んでいるのです。きっかけは自宅を建てる時に気密測定をしたことでした。断熱だけでなく気密にもこだわること、こんなにも快適になるのかと驚き、こういう家を作っていかねばと思いました。

「建材の素材にもこだわられているようですね。末岡 地域のこだわりの素材を使うようになっています。中でも特徴的なのは、クロスに標準採用している「紙布」という素材です。紙を糸のように

「紙布」という素材です。紙を糸のように組んできたと思っています。一方、断熱性能を強化すると当然コストもかかってきますが、予算オーバーでお施主さまの夢がしぼむという事は避けたい。何とか工夫することで、高い性能を確保しながらもコストを抑えられるようにしていきたいですね。



取締役副社長 末岡 京子



代表取締役社長 榎 卓雄

また、広島・岩国の高断熱・高気密に関心のある工務店・設計事務所が集まり、高断熱・高気密住宅の研究・開発などを行う「瀬戸内良質住宅研究会 レモンの家」という取り組みに参加しています。瀬戸内地域で高断熱・高気密住宅に取組んでいる事業者はまだ多くないので、今後はこういった横のつながりを強化していくことで、快適で健康的に生活できる住宅を地域にもっと増やしていきたいと思っています。

〒731-5101
広島県広島市佐伯区五月が丘2-8-26
TEL. 0120-50-4649
FAX. 082-941-1331
http://asahihomes-h.com